

「第3次仙北市総合計画（案）」に関する パブリックコメント（意見募集）の結果について

令和8年2月2日
仙北市企画部企画政策課

「第3次仙北市総合計画（案）」に関するご意見を募集した結果は次のとおりでした。
ご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。

1 意見募集の期間

令和8年1月13日（火）から令和8年1月27日（火）まで

2 意見提出の状況

- （1）意見書の数 1通
（2）具体的な意見の数 5件

3 お寄せいただいたご意見の概要と市の考え方

	ご意見の概要	市の考え方
1	市の理念が「幸福度全国No.1のまち」では、抽象的で一般市民にはわかりにくい。サブタイトルに「誰でもが住みたくなる仙北市」とでもすれば、仙北市民に共通意識が生まれ、事業の展開がしやすいのではないだろうか。	<p>本計画の市政理念「幸福度全国No.1を目指すまち」については、たしかに抽象的に見えやすい一方で、ここでいう「No.1」は数値や順位で測るものではなく、市民一人ひとりが「自分の住むまちは一番だ」と誇りをもって実感できる状態を指すものとして整理しています。</p> <p>そのため、サブタイトルを付すこと自体を重ねて行うよりも、理念の意味を本文で丁寧に説明し、誤解なく共有することが重要だと考えています。</p> <p>また、理念の実現に向けた方向性は、すでに「7つのあるべき姿」を指針として定め、何を大切にし、どのような状態を目指すのかを具体化しています。例えば、「目標を持ち、やりたいことがある人が多いまち」「やりたいことにチャレンジしている人が多いまち」</p>

		<p>など、理念を“行動と施策”に落とし込む枠組みになっています。</p> <p>このため、ご意見の趣旨（市民に伝わりやすく、共通意識を生む表現にしたいこと）については、計画本文において既に「7つのあるべき姿」や各部局の基本目標として整理・記載していることから、改めて理念にサブタイトル等の文言を追加することは行わず、現在の構成の中で市政理念の考え方を示してまいります。</p>
2	「地域運営体」は一番地域住民に近い組織である。それなのに役員以外参加する人が少なく、存在すら知らない人が多いのではないだろうか。1年間に2、3回ほど決算・予算・人事など小さい字のお知らせが配られるだけである。(他の土地の様子がわからない。)もっとオープンにしてみんなで考えたりし、市の指導がほしい。	地域運営体は、一番地域住民に近い組織の一つと考えています。地域単位のいわば自治的な取組を、誰かにお願いするものではなく地域住民の声をお互いに活かして自分たちの地域の課題解決や活性化に活かしていく組織ですので、改めてその活動などについて広報などを通じてお知らせし、各地域の中での関わる方を増やしていけるよう取り組んで参ります。
3	「市長懇談会」のような集会はまだない。(議会も)年間少なくとも2、3回はほしい。	令和8年度からの第3次仙北市総合計画では、新たに市長のタウンミーティングを年間3回計画しております。これまで公共交通座談会として地域ごとの公共交通に関する意見を担当課で伺うなどしていたものを、分野も幅広く市政一般とし、市長が直接市民のみなさんと意見交換できる機会を設けたいと考えております。
4	○○委員などの委員は任期があって良い。ただ座っているだけでなく、意見・提案のできる人を委員にしてほしい。	<p>市で任命している各種委員には、条例・要綱等に基づき任期を定めています。例えば、本総合計画 62 ページに記載の「仙北市総合政策審議会」委員についても、条例により任期が規定されています。</p> <p>また、総合政策審議会については、市ホームページで会議資料や議事録を公開しており、毎回、計画内容や市政課題に関して活発</p>

		<p>な意見交換を行っています。</p> <p>市としては、今後も各審議会等において、単に形式的に参加するのではなく、課題認識や提案を持って議論に参加いただけるよう、委員の選任や運営の工夫に努めてまいります。</p>
5	若い人がもっと社会への関心をもってほしい。老若男女の会がほしいところ。	<p>サテライトオフィス誘致や移住定住施策、インターナショナルスクールの開校（予定）などにより、地域外から仙北市に関わる方が増えてきており、若い経営者の視点、移住者という外の視点など、市民の属性も多様化してきている今は、年代を超えた縦のつながりだけでなく、同世代の中でも多様性をより意識した横のつながりの充実が、期待できる環境になってきています。今後は、市民自らが地域課題や市政に関わっていける機会が増えるよう、取り組んで参ります。</p>